

中野区総合教育会議 次第

- 1 日 時 令和元年（2019年）10月25日（金） 午前11時から
- 2 場 所 区議会第2委員会室
- 3 出席者 （構成員）
区長
教育委員会教育長、委員
（関係職員）
白土副区長、横山副区長、企画部長、総務部長、子ども教育部長・
教育委員会事務局次長、子ども教育部子ども家庭支援担当部長・教
育委員会事務局参事（子ども家庭支援担当）、企画部企画課長、総
務部総務課長、子ども教育部・教育委員会事務局子ども・教育政策
課長、教育委員会事務局指導室長
- 4 議 題 中野区教育大綱等について

- 基本的理念であるため、基本的には全ての人に対して、平等に教育を受ける機会を与えることも考えてほしい。
- 総花的になってはいけない。選択と集中、中野の教育はこれだというものを明確に打ち立てる。
- 中野区はどこを目指すのか。中野らしい、すべての人の目標になる姿をつくる必要がある。
- 公立学校をどのように魅力あるものにしていくか。
皆同じで皆いいではなくて、皆違って皆いいという学校教育を展開していかなければいけない。
- 他から比べると学校自体も、学校づくり自体も、非常に地域と関わりが深い。
- 中野は一步も二歩も踏み込んで、心の教育をどのように展開していくかが非常に大事。

生きる力の育成

保幼小中連携教育（学びの連続性）の推進

タテの連携

子どもたちが円滑に次の学校段階へ接続できるよう、乳幼児から小・中学校までの成長を見通した教育を推進している。

取組例

- 乗り入れ指導
中学校の教員が小学校の授業に、小学校の教員が中学校の授業に、相互に乗り入れて行う授業
- オープンキャンパス
小学生が年3回中学校に行き、授業や部活動を見学・体験する事業
- アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム
幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図り、発達や学びの連続性を保障するために作成する教育・保育カリキュラム

地域との協働による学校づくり

ヨコの連携

学校の教育活動の改善を図るとともに、地域や家庭の期待に応える学校づくりを進めるため、学校・地域・家庭が連携し、協働による取り組みを行っている。

取組例

- 学校評議員制度（幼稚園・小学校・中学校）
- 学校支援ボランティア制度
- 地域人材のゲストティーチャーとしての活用
- 地域の史跡・商店街等を題材とした学習
- 民間事業者・大学と連携した取組

生命・人権の尊重

お互いを大切にする心を育み、いじめの未然防止と早期発見につながる環境づくり、不登校対策の取り組みを行っている。

取組例

- 自他の生命を大切にする心や自己肯定感を育む指導
- S O S の出し方に関する教育
- 中学生を対象とする S N S を活用した相談窓口の開設

中野の教育がめざす人物像（中野区教育大綱）

- 自らの力で道を切り拓く、進取の気概を持った人
- 多様な人間性を認め合い、思いやりにあふれる人
- 公德心に富み、社会に役立つ人
- 家族、わがまち、そして自らの祖国を愛する人

①多様性(ダイバーシティ+インクルーシブ)を 尊重し、自己肯定感を育む心の教育

- ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、国籍や文化の違い、性別、障害の有無等にかかわらず、一人ひとりが安心して学べる環境を構築していく。
- 一人ひとりがその個性や特性に応じて包括的かつ継続的に支えられる仕組みを構築することで、「支え・支えられる」教育を実践していく。

②地域に支えられて育ち、 地域に貢献できる子どもを育む教育

- 学校と保護者や地域で暮らす多様な人材など、区内の資源を十分に活用し、地域全体で学ぶ環境を整備するとともに、経験を地域活動に生かす教育を一層推進していく。
- 学校・家庭・地域や保幼小中の連携を一層推進するほか、民間が持つノウハウやアイデアを最大限に活用し、教育を支える地域の力をさらに高めていく。

③豊かな情緒や個性、価値観を育み 自ら表現できる教育

- 幼児期から学齢期にかけて、伝統・文化・芸術など「ほんもの」の文化に触れることで、豊かな情操を養うとともに、それを自己表現できる教育を推進していく。

④時代の変化に 対応した教育

- 情報化社会が著しく進展する社会において、ICT教育はもとより、コミュニケーション能力などの「生きる力」を身につける教育をさらに充実させていく。
- 教育環境のICT化によって、教員の働き方改革をさらに推進し、教育の質の向上を図っていく。
- 一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や態度を育むキャリア教育を推進していく。